

第4回 第4期中海自然再生協議会議事録

日時 平成26年7月5日(土) 13:30 ~ 16:00

場所 島根県庁会議棟

第4回協議会に先だて、恒例となっている協議会の勉強会が以下のように行われた。

中海自然再生協議会主催 公開講演会 13:30 ~ 15:00

水域の貧栄養化と生態系の応答

～瀬戸内海の例から宍道湖・中海の今後を考える～

山本民次先生(広島大)

(講演内容については、後日掲載の予定です。)

次いで、協議会では中尾議長の司会のもとに、協議会が以下のように行われた(15:00 ~ 16:30)。議長から第4期の後半がこれから始まること、この会議については当初は経費なしに運営がなされてきたが、その後、環境省による地域生物多様性保全活動支援実証事業「中海自然再生事業」による支援を得られるようになったことが紹介され、議事に入った。

議事

- 1) 平成26年度環境省地域生物多様性保全活動支援実証事業『中海自然再生』実施計画(1.アマモ場の保全・再生、2.海藻類の回収及びその利用、3.砂浜の保全・再生事業、4.浚渫窪地の環境修復)の進め方について

各計画の報告を含めて、担当者から説明がなされた。1)については、奥森・国井の両氏からアマモシートの設置、エイによる食害などが説明され、今後はアマモが生育する場をどのようにして作るかが重要であるとの指摘があった。2)については鳥取島根両県による海藻の回収事業の進行状況が説明され、海藻肥料の有効性が知られるようになってきたことが述べられた。3)では熊谷氏から1と3の事業を併せて今後は湖岸域の再生という課題として進めることになったことが紹介され、そのうちの陸域については、弓浜沿いで若者ら呼び込

むことなど、再生する場の利用を考えながら事を進める必要があることが述べられた。NPO 事務局からは弓浜湖岸沿いを含めて中海の浅場について 20 ヶ所以上を選定して浅場の底生生物を含む調査場所が選定され、季節ごとの状況を把握しながら陸域と連携して進めるつもりであることが報告された。4)では桑原・樋野両氏から中国電力の協力によって窪地の埋め戻し事業の第 3 年度(平成 27 年度)が進行中であることがパワーポイント資料をもとに説明され、27 年度の覆砂事業は細井沖窪地を候補地として検討中であることが報告された(資料添付)。

報告

- 1) 平成 25 年度環境省地域生物多様性保全活動支援実証事業『中海自然再生』実施計画(1.アマモ場の保全・再生、2.海藻類の回収及びその利用、3.砂浜の保全・再生事業、4.浚渫窪地の環境修復)について

報告は議題のところの説明された。とくに補足説明はなかった。

以上で議事、報告を終了した。なお、次回の協議会は 11 月ごろを予定していることが事務局より述べられた。

添付資料

議事のうち、4.浚渫窪地の環境修復の説明資料(桑原智之・樋野俊之による)を添付します。